



輸血用血液製剤の適正管理

<項目解説>

輸血用血液製剤は貴重な献血によって供給され、その適切な使用は医療機関において重要な使命であります。その意味からも、期限切れ防止策などは重要であり、その適正な管理の指標として廃棄率は要となります。

<当院の実績>

【平成25年度】	0.58%
【平成26年度】	0.33%
【平成27年度】	0.50%
【平成28年度】	0.34%
【平成29年度】	0.22%

<当院の自己点検評価>

当院では臨床検査技術科での輸血用血液製剤一元管理（発注・払い出し・在庫管理）を実施しており、さらに輸血療法委員会を中心とした適正製剤使用を実践しています。

手術用血液製剤のストック管理徹底や患者自己血の有効利用により、廃棄血の低減に向けて今後も努力していきます。

<定義>

- ・輸血用血液製剤廃棄率
- ・購入輸血用血液製剤総額の中で、期限切れなどにより使用不可能となった廃棄金額と消費金額（廃棄金額と使用金額の和）の比率
- ・輸血用血液製剤は照射赤血球濃厚液 - LR1・LR2、新鮮凍結血漿 - LR1・LR2、照射濃厚血小板 - LR15・LR20が主なもの

<算式>

分子：輸血用血液製剤処分金額

分母：輸血用血液製剤消費金額（使用金額＋処分金額）